

第 22 期火災予防審議会第 2 回地震対策部会開催結果概要

1 開催日時

平成 27 年 12 月 14 日（月） 午前 10 時 00 分から 12 時 00 分まで

2 場所

J Aビル 3 階 301A 会議室（東京都千代田区大手町一丁目 3 番 1 号）

3 出席者

(1) 委員（14 名、敬称省略、五十音順）

池上三喜子、市古太郎、糸井川栄一、伊村則子、梅本通孝、大佛俊泰、加藤孝明、熊谷良雄、小林輝幸、杉谷陽子、玉川英則、中林一樹、矢岡俊樹、米澤健

(2) 東京消防庁関係者（9 名）

防災部長、防災部参事、震災対策課長、防災部副参事、防災調査係長、防災調査係員 4 名

4 議事

(1) これまでの審議等の経緯について

(2) 審議事項

ア 本審議における検討の方向性

イ 防火防災訓練の現状整理と課題

ウ 防火防災訓練に関する意識構造の調査

エ アンケートの設問の狙いと単純集計結果

オ アンケートの分析（クロス集計）

カ アンケートの分析（回帰モデルについて）

キ 現在のアンケート分析を踏まえた新たな訓練参加への働きかけ

ク 新たな防火防災訓練の内容・手法

5 配布資料

(1) 地部資料 2-1・これまでの審議等の経緯について

(2) 地部資料 2-2・本審議における検討の方向性

(3) 地部資料 2-3・防火防災訓練の現状整理と課題

(4) 地部資料 2-4・防火防災訓練に関する意識構造図の調査

(5) 地部資料 2-5・アンケートの設問の狙いと単純集計結果

(6) 地部資料 2-6・アンケート分析（クロス集計）

(7) 地部資料 2-7・アンケート分析（回帰モデルについて）

(8) 地部資料 2-8・現在のアンケート分析を踏まえた考察と新たな訓練参加への働きかけ
と新たな防火防災訓練内容

(9) 参考資料 1・・・消防署ヒアリング結果

(10) 参考資料 2・・・デプスインタビュー発言録

(11) 参考資料 3・・・アンケート設問

(12) 参考資料 4・・・意識構造図（アンケート設問番号対応）

(13) 参考資料 5・・・アンケート集計結果

6 議事概要

(1) 開会

(2) 議事

ア 第 22 期火災予防審議会地震対策部会(第 1 回)及び小部会(第 1～3 回)の開催結果について

事務局より地部資料 2-1 に基づき、第 22 期火災予防審議会地震対策部会第 1 回部会及び地震対策部会第 1 回から第 3 回小部会における議事概要について。

イ 防火防災訓練の現状整理と課題、防火防災訓練に関する意識構造の調査、アンケートの設問の狙いと単純集計結果について

10

事務局から地部資料 2-2、2-3、2-4、2-5 について説明した。

[委員]

デプスインタビュー、プレアンケートの実施時期が 9 月 1 日の防災の日の近辺で実施しており、対象者の防災意識に影響を与えている可能性があるが、事務局ではどのように考えているか。

[事務局]

公平性は保たれていると考えている。

[議長]

防災の日の前後でいろんな情報が対象者に入っており、何かしらのバイアスがかかっている可能性があるが、致し方ない部分はある。

20

[委員]

町内会から配られるチラシなどの話で、私の居住地域周辺だと半分くらいの世帯が一人世帯に見えるが、そのような世帯には地域からのチラシ等が届かないと思う。そのような世帯には防火防災訓練を知る機会がないように思えるが、どうだろうか。

[事務局]

現場の肌感覚ではそのように感じている。アンケートの中で、一人世帯であるか否か、地域のお知らせや回覧板が回ってくるかなどを聞いているので、クロス集計などの分析をしていきたいと考えている。

[委員]

30

地部資料 2-5 の P 16、Q 19 の結果は面白いと思う。平日の夜間に訓練の時間を取れる人が多い。防火防災訓練は昼間に実施するイメージが強いが、この点を着目しなければならないかもしれない。

また、今後どのようにまとめていくかだが、基本は、自治会・町会で訓練を実施し、そこに一般の人をどう参加させるかだと思ふ。訓練を主体的に実施する本体を捉えながら、個人参加をどのように整理するか、目星を付けながら進めていった方がよい。

地域のコアとなりうる自治会や町会などの土台の組織を防火防災訓練にどう取り込むかを気にしながら検討していただきたい。地域リーダーの観点も必要になるのではないか。

効果的な防火防災訓練とは何か、どのように訓練に参加させるのか、参加者へ訓練の効果をもたらせるためにはどのようにしたらよいのか、というステップを整理できるとよいかもしれない。

40

[庁内関係者]

町会・自治会がそもそも結成されていなかったり、管理組合があっても自治会等が組織化されていないマンションもあつたりする。町会、自治会が結成されていない地域や加入していな

い人に対してしっかり働きかけをしていかなければならない。

ウ アンケート分析（クロス集計について）

事務局から地部資料 2-6、2-7 について説明した。

[委員]

地部資料 2-6 の Q 5 について「自宅周辺地域の地震時に危険性があると感じているほど、防火防災訓練に参加していない」という部分が引っかかる。ここについて何か解釈を考えているのか。

[事務局]

10 分析が完全にできているわけではないが、アンケートで住所も聞いているので、仔細に見ていけば何かわかるかもしれない。

[委員]

地部資料 2-7 のパス解析の結果だと地部資料 2-6 の Q 5 のような結果がなかなか読み取れない。2-7 の結論部分で大規模な災害が発生するかどうかではなく、不安に感じるかどうか重要であるという話にうまく解釈をつなげられればよいかもしれない。

[議長]

疑似相関が入っている可能性や、因果が逆になっている可能性があるかもしれない。

[委員]

20 地部資料 2-6 の Q 5 話で「自宅周辺の危険が高いほど訓練に参加しない」というところだが、特に賃貸に住んでいる若い世帯は小さい子供がいてフットワークが鈍く参加しにくい、持ち家と借家などの居住形態も関係しているかもしれない。

また、参加意思も二つあるように感じる。不安だけど助かりたい・助けてほしい、地域に対して助けたい貢献したいという意識もあると思う。ここを混同してしまうと相関は見えなくなってしまうかもしれない。

[委員]

訓練内容についてだが、若い世代や単身者は町会ルートでの訓練参加が難しいことが考えられるので、そういった方を対象としたストリートパフォーマンス的な形でイベントを実施してもよいかもしれない。

[委員]

30 地部資料 2-6 の Q 5 だが、訓練に参加して知識を得て、はじめて危機意識を持つことも起こりうると思う。訓練に参加している人ほど危機意識が高いということが構造的に成り立つと思う。訓練に参加して、知識が増えてリピーターになり危険を知って守る術を学び、結果として安心感につながる。訓練参加と危機意識か、どちらが原因でどちらが結果か、両方あり得ると思う。

[事務局]

任意の人を対象として訓練に参加する前と後で比較できれば、可能かもしれない。

[議長]

共分散構造分析を活用しているとスタートに戻ってくるループは作れないので、システムダイナミクス的にスタートにループが戻ってくる分析手法も存在する。

40 [委員]

地部資料の 2-6 の Q 5 の解釈だが、腑に落ちない部分もある。経験上、訓練参加者はリピーターが多いように感じる。

訓練参加の頻度によって階層的に分けられるのではないかと思う。訓練参加の頻度は聞いて

いるのか。

[事務局]

訓練頻度は段階に分けて聞いているので、掘り下げて分析できると思う。

[委員]

社会が災害危険性に関して過剰に反応している可能性もある。

[議長]

防火防災訓練を実施するにあたり、どの程度地域住民にアナウンスしているかどうかも関係しているかもしれない。

[委員]

10 地部資料2-7、P33の文中の「要援護者」とあるが、「要配慮者」と変更した方がよい。

[議長]

自治会に加入していない半分の人に対してどのように防火防災訓練参加のアナウンスしていくのか。この半分の人に對するアナウンスをするネットワークがないことが一つの大きな課題である。

[委員]

地部資料2-7のP36の「表7-36」、「表7-37」だが、「2項ロジスティック解析」ではなく「平均値の差の検定」である。

[議長]

20 テーマについて因子分析をして合成変数を出して、訓練参加の有無との回帰してみた。2、3個の項目を同時に投入して相互作用を含めた分析をやっておいた方がよい。たとえば、地部資料2-7の図7-21の図中の「エンターテイメント性」、「訓練は退屈」、「訓練は重要」といった項目を今は別々に分析しているが、これを同時に分析するとよい。

[委員]

地部資料2-7のP31、「災害時に自信のある」因子について、自信のある因子は、訓練の結果から得られたものなのか、居住環境の状況からの影響なのかなどをはっきりさせるべき。訓練に1回参加しただけでなく、何度も参加してもらうことにより正しく学んで、正しく対策を理解してもらうことで不安感が下がっていく。そのようなことが訓練の効果を高めることにつながっていくのではないか。

[議長]

30 地部資料2-6のP5のQ5因果が逆なのか疑似相関なのかのところだが、地部資料2-7のP43の意識構造図の中にQ5の項目が入っていないので、うまく組み込めたらよいと思う。

エ アンケート分析（回帰モデルについて）

事務局から地部資料2-8について説明した。

[委員]

全体を見たとき、ターゲットとなりそうな層がどれくらいのボリュームで存在するかを抑えて、今回の検討でどこの層を狙うか、最も効果のありそうなターゲットを絞った方がよい。その上で、絞ったターゲットについては掘り下げ、手法の検討に入っていくステップを踏んだ方がよい。ボリューム感が薄い層は、今回は対象から外すことも考えてもよいかもしれない。

40

[議長]

たとえば、地部資料2-5のQ19のように平日の夜に訓練参加が可能としている人は、もしかしたら土日は参加できないということになるかもしれない。全く地域的つながりのない若い世帯や高齢者世帯などのセグメントのボリューム感を出しながら、働きかけを行うターゲッ

ト層に対して訓練参加の働きかけの方法が効果的かどうかを検証していく。

訓練に参加していない層に対して参加の働きかけをして、本当に参加するのかを社会実験でみていきたい。

[委員]

ターゲットにするのは、個人なのか、組織やつながりのある人が対象なのか。訓練形式として個人型と組織型になると思う。これは、自助型、共助型につながってくる。自助型の個人の訓練が一番足りないと思う。

個人と組織、自助と共助のイメージをすると訓練の内容やターゲット、場所の設定の方法が変わってくると思う。訓練の内容とターゲット、訓練場所を噛み合わせて整理していくとよいかもしれない。

10

[委員]

今回の提案は、防火防災訓練に参加する、しないの分析に基づいて作られたと思うが、今訓練に参加している人は今のやり方を評価している人たちであるので、このままでよいと思う。むしろ訓練に参加していない人たちがどうかを注目するべきだと思う。

分析の中では訓練に「参加あり」、「参加なし」で分析しているが、参加したことがない人たちの中で、「今後訓練に参加したい」、「今後も参加したくない」という項目に注目して意識の違いを分析していけば、これまで訓練に参加していなかった人たちに対する施策が見えてくるのではないかと思う。

また、訓練に参加している人の参加頻度を分析対象とするなど、少し分けて分析していくのもよいかもしれない。

20

[委員]

今回地域を分けてアンケートを取られているので、下町、都心、山手など地域特性が異なると思う。地域差も見ていければよいかもしれない。

[庁内関係者]

81の消防署が今回の審議で検討されたモデルをそれぞれの消防署の地域色を加えて活用していくことになると考えている。消防署での活用時に地域特性については必ず何かしらの色を付けられるようにしたい。

(1) その他

30

事務局より、第4回小部会の開催時期（来年2月を予定）について連絡した。

(4) 閉会